放射性セシウムを含む木材の有効活用技術
バイオマスガス化発電による効率的な減容化

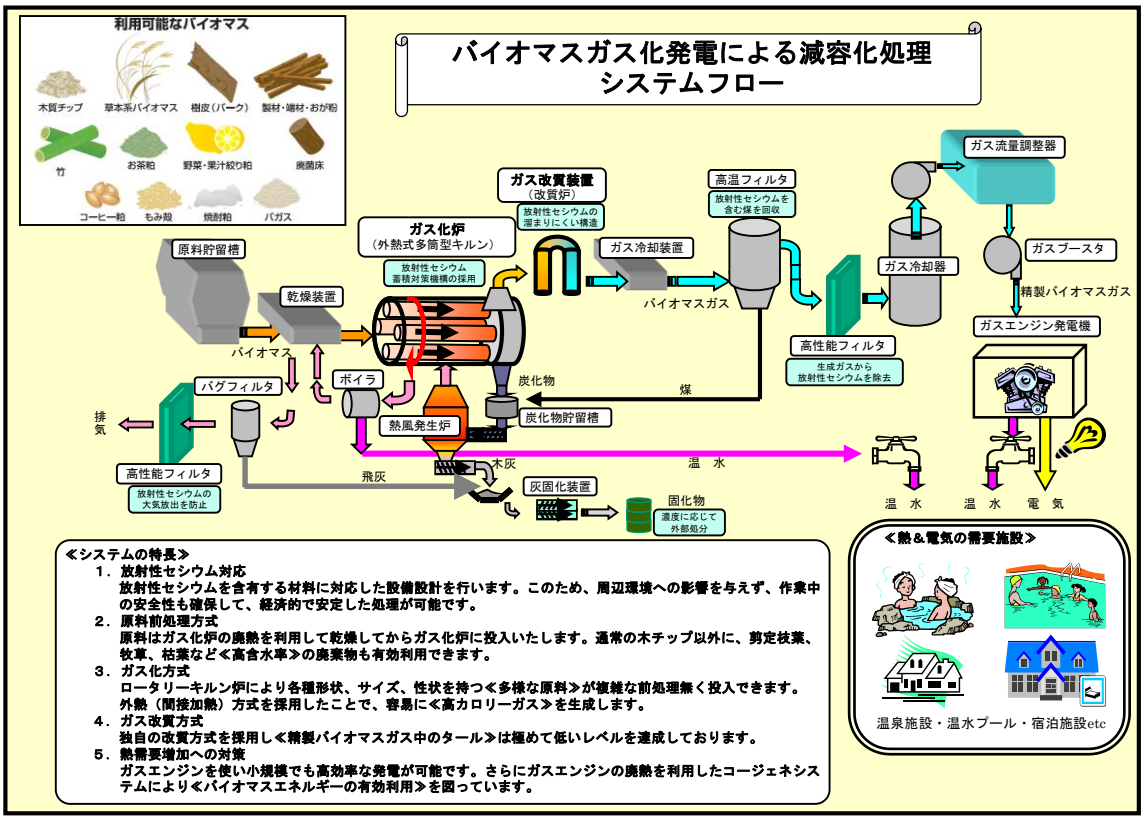
処理システム概要

福島第一原子力発電所の事故に伴い、放射性セシウムが拡散し、広い範囲の木材等に放射性セシウムが含まれています。このため、これまで、薪やたい肥として使用していた間伐材や製材残材、飼料等で利用していた牧草、稲藁等が利用困難となっています。これらは、焼却処理することで減容化できますが、経済的な負担が大きいこと、他の可燃物と混合焼却すると放射性セシウムを含む焼却灰が増加することが課題です。

これらの有機物を専用のバイオマスガス化発電設備の燃料として活用しながら、安全で効率的かつ経済的な減容化・エネルギー回収を図ることを提案します。

放射性セシウムは、灰として回収されますので、これを自動的に固化処理して専用の保管場所※に搬出・処分します。

※.8,000Bq/kgを超える灰は、国が設置する専用の処分施設に、8,000Bq/kg未満の灰は、管理型処分場に搬出します。

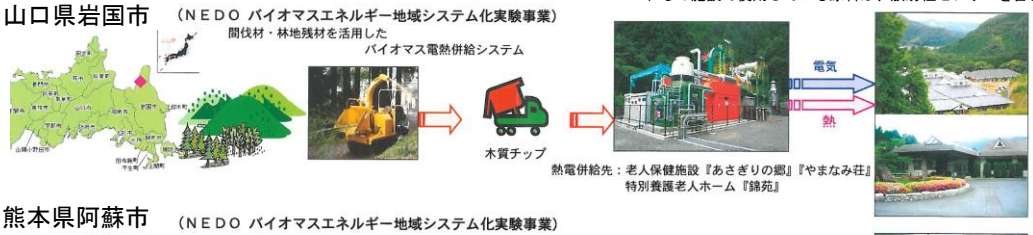


※中外炉工業　バイオマスガス発電設備パンフレットを元に作成

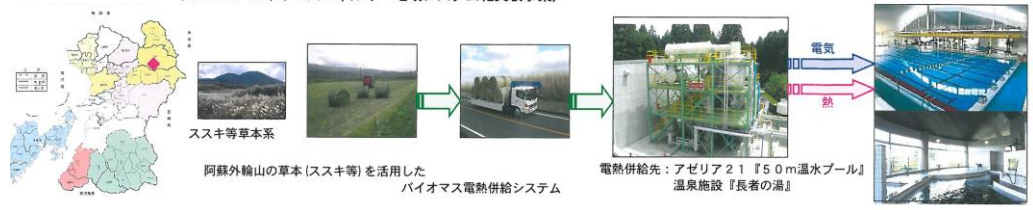
類　似　事　例

これらの施設で使用している原料は、放射性セシウムを含まないバイオマスです

山口県岩国市　（ＮＥＤＯ バイオマスエネルギー地域システム化実験事業）



熊本県阿蘇市　（ＮＥＤＯ バイオマスエネルギー地域システム化実験事業）



㈱鴻池組　環境エンジニアリング本部
東京 TEL 03-5201-7920
大阪 TEL 06-6245-6589
https://www.konoike.co.jp/request/index.php